

⑧の組

55 ～八幡神社～



古くから小田の産土（うぶすな）神として祀られてきた。小田城の城主よりの帰依・寄進を受けた。1243年の小早川家古文書には 社のために6反の米が差し出された。また社殿の改修・石碑の建立も行われてきた。本殿は 過去何回かの改修が行なわれているが 最近では 平成 22 年に基礎からの地盤や欄干・廊下などの改修を行った。

57 ～仏典逆修板碑～八幡神社境内



永禄 13(1570)年 12 代 小田城主景範が死後仏の恵みを願って奉納した石板碑である。法華経 2000 部の供養をした。（市の重文指定）。別の名を転読の碑とも云う。
左の「文明碑」、右の「逆修碑」とも約 500 年の経過なので 後世に残すために有志が直ぐ側に「復刻石碑」を建立（平成 22 年）。

59 ～石鳥居～ ⑧の組



延宝 9（1681）年 小田村 庄屋 松井氏 5 代庄九郎盛忠の寄進。河内町では一番古い鳥居である。
芸予大地震（平成 13）にも倒壊せず 強固な鳥居である。この鳥居の前後の参道の両側には「天皇御在位 60 年記念」の献灯が小田区民として奉納されている。

61 ～円明寺址～ ⑧の組



八幡神社の南の ふもとにあつて昔 この寺の和尚さんが四言絶句の「文明碑」を書いたとされる。
県道からこの円明橋を渡って 8 の組 八幡神社 9 の組へ行く。

56 ～文明板碑～八幡神社境内



文明 11（1479）年に 四言絶句の詩を記した石碑が 建立された（市の重文指定）。文明寺址の 文明和尚さんの作と云う。
京から九州への往復時に立ち寄った…定かではない。
「太古の昔より この八幡の峰には 神の風が吹き 木々は琴のような音色を奏でている」の意を石碑に刻んである。

58 ～菅公千年祭記念碑～八幡神社境内



学問の神様「菅原道真」が没して千年を迎えるに当たって全国的に行われた。明治 36 年 2 月 23 日建立。 境内の 牛神社の右隣にある。小田 1～12 の組の氏子が寄付者で 269 名であるが 現存しない家名もある。寄付金 19 円 94 銭。当時の小田の家が分かり大変貴重な記録であるが風化して字が 判読出来ない点もある。

60 ～八王子社～ 八幡神社門前～



石鳥居の直ぐ右の 10m の所にある。元は和木（大和町和木）の王子原（現在 運動公園の所）にあった。
源氏系以仁王（もちひとおう）を祀ったものと伝えられている。この地が 8 の組の宮で八の王子社が 八王子と呼ばれるようになった。

62 ～大水車～ ⑧の組



保養施設「賀茂の里」（現在 休止）が設立された当時の 平成 4 年 12 月に製作された。もので木造直径 14m である。
西日本で一番大きな水車である。朝日が輝くように似ているので「朝日の大水車」と呼ばれている。

61 ～小宇地屋墓地～ ⑧の組



平安末期の武士の時代の始まりの治承 4 (1180) 年 源頼政は 宇治川橋の戦いで敗れ 二男の国政は 平家の追討を逃れ小田の地に逃れて来た。
小田では 小宇地屋長者と呼ばれていた。
8 代 270 年くらい住んで 山県郡に移り住んだ。その後 小田氏を名乗ったと云う。

62 ～千人塚 (胴塚) ～ ⑧の組



昔 平賀氏 (白市・頭崎城) が小田城を攻めてきた時 小田の地は戦場となった。この時に討ち取った首を埋葬したと云うで伝説もあるし この場所で戦人が自害したと伝えられてもいる。
宝篋印塔は 後世のものである (高さ 1m 廻り 23m)。

63 ～賽 の 社～ 8 の組・日本ヶ峰林道



村外れの境界や 道の辻などに 祀られている神で同祖信を云う。いろんな病や災害をここから村に入れないために「さえぎる」神として祀られた。
「くなど」の神も同じ様な意味で「くるな」の神である。

64 ～賽 の 峠～ ⑧の組



「さいのたお」と呼ぶ。八幡神社の西南から上穏地を登った頂上が「賽の峠」である。
日本ヶ峰林道を 横切って下れば 中河内への近道で 河内小学校の後へ出る。
(12 の組へ上る県道から撮影)

～ 八幡神社境内から石鳥居 まで～



石段中央に手すり 左右に「花灯笼」



「注連縄」も新調 境内は整備



桜満開の参道 大鳥居